我が運命をかえてやる

北条嘉琳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
我が運命をかえてやる

【Ｎコード】
Ｎ９６５２Ｓ

【作者名】
北条嘉琳

【あらすじ】
いままで何不自由ないごく普通の生活をしてきた君星拓弥。ある日拓弥の前に現れたのは『エクソシスト』と名乗る人物。拓弥はその人とともに異世界へいきなりとばされた。いきなりエクソシストの仲間入りを果たした拓弥の壮絶な戦闘ストーリー。

プロローグ（前書き）

こんにちは！この小説のタイトルは『われがさだめをかえてやる』です。くれぐれも、運命を『うんめい』と読まないでください！

プロローグ

今日は日曜日。明日が期末テストの、三善野高校1年の君星拓弥は、堂々とゲームをやっていた。拓弥の成績はオール3で、好きな教科も、嫌いな教科もない、ごく普通の高校生。だから、今日の夜に一夜ずけでもして覚えればいいと軽く考えていた。

すると、ピンポーンとベルが鳴った。

「ったく、誰だよ。」

いら立ちながらも拓弥は玄関へ向かった。今日は父も母も妹の聖菜も出かけているため、家には拓弥一人。そのため必然的に拓弥が出なければならない状況である。

「・・・はい。」

拓弥はドアを開けた。するとそこには、黒いスーツを身にまとった、SPのような男性がたっていた。

「あの・・・なんですか？」

拓弥は面倒くさそうに言った。

「君星拓弥さんですね？」

「ええ、まぁ・・・そうですけど・・・。」

「お時間いいでしょうか？」

「・・・はい。まぁどうぞ。」

と、SPのような人を家に上がらせた。

SPのような人は、ソファに腰掛けると、君も座って、というように手を振った。

「実は、あなたは知らないと思いますが・・・」

「・・・はぁ。」

「あなたは、エクソシストです。」

「・・・はぁ。」

エクソシスト・・・『悪魔払いの祈祷師』・・・拓弥のやっている

ゲームは、『天と地のエクソシスト2』というＲＰＧゲーム。中三のとき、エクソシストの意味を調べたことがある・・・
「ハハハッ。やはり信用できませんよね。では、これから行きましょう。みなさんがあなたをお待ちですよ。」
「・・・あなたは・・・」
「私は、ソイル＝ルイージュと言います。エクソシスト探しをしているんです。」
ソイルはタロットカードをだした。
「天と地に光を、私たちを異世界のもとへ・・・」
すると床に、万華鏡のようにきれいな模様の光がでた。
２人はシューっと光とともに異世界へとんだ。

プロローグ（後書き）

キャラクター

君星拓弥（きみぼしたくや）

君星聖菜（きみぼしせいな）

ソイル＝ルイージュ

エクソシストへ

拓弥とソイルは大きなドアの前にたっていた。
「さぁ。どうぞ。」
キキキッとドアを開けると中には大きな十字架がある。
「遅い。」
「すみません。連れてきました。」
奥からは、大人の女性の声がした。拓弥はソイルの後についていき、女の人の前に立った。
「ふふ。もう分かったかしら。」
拓弥はようやく自分が本当にエクソシストだと言うことに気がついた。
「とりあえず、座って。」
拓弥は、後ろにあるソファに腰掛けた。
拓弥の他に6人の見知らぬ男女が、ソファに座っていた。その6人も服装がバラバラだったことから、拓弥は、自分と同じように突然連れてこられたんだと感じた。
「なんなんだよ！！」
一人の少年が怒りだした。
「そうね。全員揃ったことだし、説明しようかしら。」
「私は、ヘイリー・ムー。このエクソシストグループのトップリーダーよ。もうみんな分かっていると思うけれど、みんなはエクソシストなの。」
「じゃあ、私たち、戦うんですか！？」
眼鏡をかけた少女が震えた声で言った。
「まぁ、そうなるわ。みんなには、世界を旅して、魔のモンスターを倒し、封印してほしいの。」
「でも、それは今いるエクソシストがやればいいじゃない！」
茶髪の、拓弥と同級生くらいの子が言う。

「でも、そのエクソシストさえも手に負えないモンスターがいるってわけよ。」
隣の女の子が冷静に言った。
「そう！今いるエクソシストに最新の武器を与えたんだけど・・・武器があわなくって。うまく封印できなかったの。だから、史上最強のメモス族の血を引くあなたたちなら・・・とおもってね。」
「封印・・・するだけ？殺しちゃえば？」
茶髪の子がハハと笑いながらいった。
「いいえ。だめなの。モンスターはね、復活するの。殺すのと封印するのでは封印するほうが強くなるのをすこし防げる。たとえば、レベル１０のモンスターがいるとすると、殺せば復活したときにレベル１２になるのを、封印するだけなら復活したときレベル１０・５にすることができるの。」
少しシンと静まり返ると、
「よっしゃ！みんなやったろうぜ！俺らはエクソシスト！」
と、さっきおこってた少年が立ち上がっていった。

こうして計７人のエクソシストが誕生した。

エクソシストへ（後書き）

キャラクター
ヘイリー・ムー

理由

拓弥と他の六人にはいろいろなものが配られた。
ヘイリーはＢ５サイズの紙を最初に配った。
「この紙をよく読んで！」

《新たなエクソシスト　君星拓弥　様》

こんにちは。私たちエクソシストは、極秘任務として、魔のモンスターを倒して
います。しかし近年、魔のモンスターの中で最も強いモンスターが現れたとの情
報が入りました。今のエクソシストは、自分にあった武器が、その魔のモンスタ
ーに戦える武器ではないのです。では、最新の武器は？と考えるでしょう。いい
え。それは無理です。新しく、強い武器を使うには、エクソシストのレベルを上
げないといけません。レベルをあげるには、３つの方法があります。

1、厳しい訓練に耐える。

2、とても強いモンスターと戦う。

3、体を改造する。

この3つです。どれもぞっとしますよね。レベルを上げるには相当時間と体力が
必要です。そこで、人類史上最強のメモス族の血を引くエクソシストに、魔のモ
ンスターを封印してもらいたいのです。メモス族は、体力・魔力・復活力がどれ
も抜群にあり、そして、エクソシストを次々と出してきた部族なんです。・・・

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9652s/

我が運命をかえてやる

2011年5月15日14時53分発行